

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED-mail20070106.0058	2006年12月23日、ケニア Garissa の公立病院に入院した患者複数の症例から、リフトバレー熱のヒトでのアウトブレイクが初めて確認された。IgM及びPCRにより確定診断された。同地区での発病率は、19/10万人で、最高値は最初に患者が見つかった Shanta Abak の129/10万人である。2007年1月5日現在で188例に達し、うち68例が死亡した。2007年1月4日、ケニヤ北東部の Ilara 地区でリフトバレー熱の新規疑い例8例が発見された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイビー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルト・ヤコブ病病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度で25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルボールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因プリオンである可能性がある。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 162-164	1999年4月から2005年3月まで日本のCJDサーベイランス委員会に登録されていたプリオン病患者について分析した。日本のプリオン疾患患者597名のうち11名(1.8%)が、発症の前1ヶ月以内に眼科手術を受けた。眼科医はいずれもプリオンタンパクの感染性を除去するには不十分な減菌しか行われていない手術器具を再使用していた。眼科医は、プリオン疾患が眼症状を引き起こす可能性があることを認識し、可能な限り使い捨て器具を使用すべきである。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的徴候を発現し、National Prion Clinicへ紹介され、vCJDと診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫ブロットティング法および免疫組織化学検査により異常プリオンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオンの1次感染患者と同様、医師的曝露を被った他の高リスク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にする。